

チャレンジいばらき

折橋地域活性化プロジェクトチーム



ネットワーカー等連絡協議会代表者会議



■ 社会活動デビューセミナー ■ 私のボランティアtalk&matching事業

特集 地域で頑張る シニアヒーロー

- 団体会員を訪ねて
- 茨城県生活学校連絡会×専門学校文化デザイナー学院
- ネットワーカー等連絡協議会代表者会議 ■ ネットワーカー活動紹介

茨城県生活学校連絡会×専門学校文化デザイナー学院



村松北区キラキラ子ども会

令和
6年度

社会活動 デビューセミナー

地域の課題解決など社会の新しい力になりたいと考えている方のチャレンジを応援するセミナー。市民参画の取り組みなどで活躍するゲストから、地域活動状況をお話いただきました。



令和6年8月31日 茨城県三の丸庁舎（交流サルーンいばらき）

第1回

子どもや若者と地域をつなぐ

以前、実施した中高生向けの居場所づくり事業では、貧困や不登校など何らかの課題を抱えた子どもが想像以上に多く訪れ、地域に留まる割合も高いように感じました。地域と若者をつなぐ際には、悩みのある子どもたちでもどのように地域と関わりが持てるのかを考えなくてはなりません。地域の課題解決に求められるのは、住みたい街は自分たちでつくっていくという当事者意識です。「まちが育て、まちを育てる」を合言葉に焼津市内商店街に開いた「みんなの図書館さんかく」も、市民発の公共空間づくりを目的に始めました。この一箱本棚オーナーは、本はもちろん自作品など自由に展示でき、その内容に共感する人が現れることで新しい出会いを広げています。複数の属人性をつくることを心がけ、誰もが個性を生かして主人公になれる場所を目指しています。相手への伝わり方＝ネーミングも重要で、例えば「交流拠点〇〇」などという名称だったら私は入りたくありません。名称と目的を敢えて一致させない工夫も大事です。最近では10代、20代の拠点「みんなの公民館まる」の開設にチャレンジしています。行政主導ではその時々都合に左右される危うさがあり、民設民営であることが必須です。今の子どもたちには、ゆっくり考える時間や余裕が必要と感じていて、人生の「寄り道」ができる場所を提供していきたいと考えています。様々な活動を通して、子ども・若者が常に真ん中でいられる公民館にしていきたいですね。

ゲスト

一般社団法人トリナス 代表理事
みんなの図書館さんかく 館長
土肥 潤也 さん

交流会

セミナーに続いて行われた交流会には、茨城県内で地域・まちづくりに取り組むベンチャー企業などが作ったドリンクやフード、季節の野菜などを取り揃えました。参加者のみなさんは思い思いに味わいながら、自分の活動を紹介したり、近況を報告し合ったりと、交流のひと時を有意義に過ごしていました。



私のボランティア talk & matching 事業

茨城県内でボランティア活動を行っている団体の取り組みを紹介する場を設け、新たなボランティア活動者の参加を促進するとともに、活動者同士の情報交換・ネットワーク拡充を図り、地域における共助のための活動を活性化します。

第1回
テーマ

ダイバーシティ

令和6年9月10日
茨城県三の丸庁舎（交流サロニーばらき）



誰もが地域で輝ける社会づくり

UDワークは、「自分らしい安心感のある暮らし」をスローガンに、地域における社会参加を目指しています。作業療法士として病院に勤務していた当時、リハビリを終えて退院した方が孤立しないように、地域に出ていける環境づくりが必要だと感じていました。周りの人と一緒に生きている実感が重要で、“病気でも諦めずチャレンジする”を目標に、社会参加を促す活動を行っています。平均年齢95歳位の高齢者でグループを作ってアート施設に出向き、高齢者が先生、子どもたちが生徒という形でアートをテーマに交流しているのもその一つです。認知症の方と音楽イベントに出かけた際には、その方が目に見えて元気を取り戻しただけでなく、地域に出る大切さを体感したご本人が同じ境遇にある人へ向けて情報発信を始めるまでになっています。「人と人との偶然な出会いが全ての起点になる」という信念のもと、これからも社会参加のきっかけづくりに取り組んでいきます。



ゲスト

株式会社UDワーク
代表取締役
前田 亮一さん

障がいを抱えた当事者の視点から

社会は健常者中心に設計されていることが多い。2019年に脳出血を発症し後遺症で左半身に麻痺が残り、その現実を痛感しました。これを機に、「世界はサカサマ」代表の妻と二人三脚で自身のリハビリ生活や障がい者が直面する課題などを発信するYouTubeをスタートしました。現在1.4万人にチャンネル登録されています。活動として、当事者やその家族が交流し、情報を共有する「片麻痺さんぽ会」を月1回開催しています。また、片手でも使いやすい服へのお直しサービス「Tink Fit!」は、麻痺の影響で服の脱ぎ着に苦労した実体験を生かしています。最近では、花火大会に当事者とその家族を招待するイベントを企画・開催し好評を得ました。ダイバーシティ社会の実現に大切なのは、障がい者への理解ができる人を増やすことです。これからも、さんぽ会など参加型イベントを企画し、当事者とその家族の体験価値を高める取り組みを行っていきます。



ゲスト

株式会社スタジオサカ
代表取締役
坂 大樹さん

多様な人材の活用とサポート

ライフサポート山野では、介護事業を展開するなかで、2020年から外国籍人材の雇用に力を入れています。外国人登録支援機関の認可も受けており、在留資格の申請や変更のサポートに加え、研修なども実施していますが、実情として、小規模会社での外国人雇用は苦労が多いと感じています。このほかの支援として、日本在住または家族と共に滞在している外国人を対象に、介護業界への理解を深める場を設けています。円滑なやり取りが日本語でできるように、研修や能力試験を実施、さらに社員やその家族も交えて外国語に親しむためのイベントを開催しています。また、日本語や英語、タガログ語などによる読み聞かせ会や各国の料理を味わえる異文化交流会を通じて相互理解を深めています。ここ数年は、インターンシップを活用した海外の大学との交流に力を入れています。日本、そして茨城県の取り組みを学生たちに理解してもらい、新たなつながりを生み出す活動を続けていきます。



ゲスト

株式会社ライフサポート山野
代表取締役
山野 英治さん



常陸太田市

折橋地域活性化 プロジェクトチーム

共同代表

助川 仁一さん・菊池 竹一さん

1写真左から 根本範邦さん 助川仁一さん 菊池竹一さん 佐藤善昭さん 佐川佳正さん
2竹ランプづくり 3和やかな雰囲気あふれるそば打ち体験・試食会

かつて地域の中心だった築200年の元酒蔵「金波寒月」を折橋コミュニティ・ステーションとして再生し、過疎化が進む地域に活気が生まれるよう活動をしています。地元有志やボランティアが協力し開催する地域特性を活かしたイベントは、チームの皆さんの飾らない自然体な雰囲気が好評で市内外から多くの参加者が訪れています。



活動を続けてきて 感じる変化や気付きは？

活動を始めてこの12月で10年になります。最初の頃は地元のお年寄りを対象にした地域おこしの活動がメインでしたが、年を追うごとに高齢化が進み、参加が難しくなっていました。替わって増えてきたのが折橋地区と直接のつながりがない人たちの参加です。イベントで地域外の人たちと交流する機会が多くなり、地域活性化の活動は新しいステージへ入ったように感じます。この年になって、仕事をしていた現役時代より遥かに新鮮で濃厚な人づきあいが出来るというのは素晴らしいことですね。

活動に際して 特に心がけていることは？

自分の経験を持ち出して、やり方や考えを押し付けたり偉ぶったりしないことでしょうか。月1回のそば打ち体験も、参加者には遊びのような感覚で楽しんでもらっています。それには私たち自身が自然体で接して一緒に楽しむことも大切です。また、イベントには大学教授のような権威のある方が参加される時もありますが、私たちは肩書や年齢など意識したことはありません。変な気遣いなど無い方が、相手も「受け入れてもらえている」と感じ、それが居心地の良さにつながるのではないかと思います。

これからの展望や 課題について教えてください

私たちは、一時期を除いて子どもの頃から、共に同じ場所で暮らし、そのまま年を重ねて今に至っています。この間、若者の参入がほぼ無かったため、私たちが長老であり若手でもあるという厳しい現実に立たされています。今の活動を続けたいと思う一方で、後継者問題は避けて通れません。現在は私(助川さん)がフェイスブックをメインに情報発信していますが、次の世代に向けたPRとしてインスタグラムにも挑戦してみたいです。イベント活動による新しいつながりが増え続けている今、それを絶やさずに継続していくことが重要だと考えています。

参加者の 声

そば打ちに初めて参加しました。同じ場所にいるみんなが打ち解けやすい、アットホームな雰囲気で楽しく体験できて大満足です。

参加者(埼玉県川口市)



新しい出会いや色々な経験ができるのが良いですね。5年ほど通っていますが、何よりもスタッフの皆さんの人柄が一番の魅力だと感じています。

参加者(日立市)

見てね!!



活動紹介
動画

茨城県では65歳以上の人口が約30%を占め、高齢化が進む中、シニア世代の活躍が地域を元気づけています。リタイア後も培った経験を活かし、70代・80代でもまだまだ元気に活動する彼ら。その熱意は、地域全体を盛り上げる原動力となっています。今回は、そんな頼もしいシニアヒーローたちの取り組みを紹介します。



東海村

村松北区 キラキラ子ども会

会長 齋藤 亮一さん

1写真左から 齋藤亮一さん 篠原諒さん 齋藤晴雄さん

2みんなが楽しみにしているクリスマス会 3付き添いの保護者もスタッフとしてお手伝い

固定の年会費なし、保護者からの役員選出や当番なし、地区外からの加入OKという異例づくめの子ども会。隣接したクロッキー場を利用したキャンプ、のべ600人が参加する夏休みラジオ体操、子ども会を支援している自治会との三世交代交流会など、地域における子どもたちの居場所や集まる機会は、旗揚げ当初から携わっている平均年齢79歳（現在）の“おじちゃん”たちに支えられています。

子ども会を立ち上げた経緯や背景は？

きっかけは、2005年に地区再編で「村松北区自治会」が誕生したことです。同じ頃、東海村内の子ども会は少子化などの影響で減少傾向にあり、私たちの学区内でも一度は廃止になっていました。自治会新設から間もなく、地域で子どもたちに寄り添い育成するために再び子ども会をつくろうという話が持ち上がり、初代会長に足田さんが就き活動が始まりました。それから19年、私（齋藤亮一さん）が2代目の会長で引き継いでから10年以上になります。

持回りの役職なし、年会費ゼロでの子ども会運営は大変ですよね？

保護者からは、役員を引き受けることがなくて参加しやすいと言われていました。参加費として年間の保険代と行事ごとの実費は徴収していますが、その他は自治会からの補助金や村の助成金などで運営しています。主な役員は、会長と会計で、合わせて2～3人という体制は当初から変わりません。そのかわり、イベントをやるよ！と声をかけると必ず保護者が手伝いに集まるし、その中から自然にまとめ役になってくれる方もいて、連携がうまく来ています。大変なのは全体を統括しなきゃならない会長かな（笑）。

皆さんが元気に活動できる秘訣を教えてください。

子ども好きだからできる活動ですが、一番は楽しくやってもらいたいという強い気持ちです。老いは感じていますが、活動を通じて子どもたちにいつも元気をもらいながら続けてきました。今後ますます少子化が進んでいく中で会をどう存続していくのか、また、次代の会長への引継ぎなど、解決していかなければならない課題はありますが、今いる子どもたちに楽しんでもらうことが何よりも大切なことです。子どもも保護者も我々シニアも、面白くなくちゃしょうがないですからね。

参加者の声

齋藤さんたち主導で色々なことをやっていただけて私たちは助かっています。（役職として）会長さんなどの順番が回ってこないのもすごくありがたく思っています。

保護者



小学5年の時に学校で友達から聞いて参加しました。クリスマス会ではケーキが食べられて楽しい思い出になりました。

小学6年 男の子

団体会員を訪ねて Vol.9

青柳工業株式会社

本社 茨城県水戸市
青柳町644

事業内容 電子部品・デバイス・電子回路製造業



社員の声を反映した環境活動を実践する青柳工業株式会社。
イベントや地域清掃などにも会社全体で積極的に取り組んでいます。

代表取締役 大曾根 哲哉さん(左)

組立グループ 班長 高橋 充さん(右)

水戸市環境フェアに出展する同社ブースで人気なのが、中古プロ工具の無償譲渡です。電子部品・回路の製造で使用する工具は高い精度が必要で、微細な不具合でも作業不適合となり、その数は1年で100本近くに。「捨てるのはもったいない」という社員の声と市からの誘いを機に、20年間出展しています。また、15年続けている会社周辺の環境美化活動は、5拠点ごとに年2回実施。大曾根社長は、「地域に貢献でき、社員同士の交流にもなる良い機会」と笑顔で語ります。これら活動の中心は「環境会議」という社内組織です。メンバーの1人である高橋さんは、環境問題への意識向上や自社地域の再発見を目的に3本の動画を作成。同僚から「面白い勉強になった」との感想を受け、環境フェアでも放映し手応えを感じたそうです。社長は今後の社会貢献活動について「行政や政治だけでは解決できない課題も増えている中、微力ですが、社員やその家族のモラル向上が助け合いに繋がり社会を少しでも良くしていければ」と、今後も取り組んで行く考えです。



令和6年9月21日(土) イオンモール水戸内原

茨城県生活学校連絡会 × 専門学校文化デザイナー学院



ユニクロの商品と着物のリメイクズボンを着用する学生

「もったいない」の精神で、環境問題、食品ロスの削減、古着のリメイクなどに注力している県生活学校連絡会。当団体がつなぎ役となり、専門学校「文化デザイナー学院」に声をかけたことがきっかけで、60代～80代のメンバー10名がショーに参加しました。

会のメンバーが手がけた着物のリメイク作品を学生たちがコーディネート・着用し、ファッションショーで披露しました。また、会のメンバーは、エイジレスファッションをテーマに文化デザイナー学院の学生たちがコーディネートしたユニクロの衣装をまとい、ランウェイを堂々と歩きました。年齢を重ねてもなお、新たな挑戦に意欲的に取り組む姿は、周囲に元気と勇気を与え、会場からは惜しみない拍手が送られました。このような取り組みは、伝統文化の再利用や若い世代とのつながりを深めるだけでなく、環境保護や持続可能な社会の実現にも貢献しています。





令和6年7月17日 茨城県立歴史館 講堂

ネットワーカー等 連絡協議会代表者会議

住みよい茨城づくりを目指し、地域の人たちのネットワークづくりに取り組むネットワーカー（地域活動員）等連絡協議会の代表者と市町村担当課の職員に参加いただき、活動報告や意見・情報交換などを行いました。

常磐大学・短期大学のボランティア団体 TORICOLOR (トリコロール)からは、「子ども支援」、「災害復興支援」及び「地域支援」を中心とした活動を紹介いただき、なかでも「多世代交流企画」の話には、若い世代との連携を模索している代表者の皆さんが熱心に聞き入っていました。

昨年度に新規加入者が一番多かったネットワーカー常総の小林会長からは、新規会員確保の取り組みとして、メンバーの趣味を通じた“つながり”から入会者を増やしていったこと、更にそれをきっかけに事業に発展したことなどをお話いただきました。

最後に、ネットワーカーの確保についてグループに分かれて話し合いを行いました。普段、他地域との交流の機会が少ない代表者や市町村担当課の職員とで活発な意見・情報交換がなされ、会場は今後の活動に活かす方策を見出そうとする熱意にあふれていました。



県民運動を地域で支える地域活動員 ネットワーカー の活動紹介

チャレンジみとネットワーク

私たちのグループは、2024年4月に結成したばかり。メンバーは7名で、これからメンバー・活動ともに少しずつ充実させたいと考えています。

まず、水戸市内の活動団体とのネットワーク作りと協力関係の構築を目指し活動をスタート。6月に実施された「水戸市環境フェア2024」に参加して、当会及びチャレンジいばらき県民運動のPRをしました。8月には、当会の広報紙「水戸ネットワーカー伝言板 第1号」を発行し、メンバーや知り合いに配布。チャレンジいばらき県民運動主催のイベント情報やふるさと自慢の推薦を呼びかける記事を掲載しました。行政や他団体などと協力できることがあれば、連携し進めたいと考えています。小さなステップでも、できることから始めてみます。

グループ代表 高橋 正道さん



チャレンジいばらき県民運動

ネットワーカー募集中!

地域活動員（ネットワーカー）は、居住する地域において、地域の人たちのネットワークづくりや住み良い地域づくりに取り組んでおり、現在、約700名の方々が県内各地で活躍しています。皆さんも、一緒に活動しませんか？

詳しくは、お住まいの市町村へお問い合わせください。

いばらきチャレンジアワード「支え合い2024」

ファイナリストプレゼンテーション・表彰式

観覧無料

オンライン配信あり

このアワードは、福祉、環境、青少年育成、防犯・防災、地域づくり、コミュニティづくり、SDGsの推進など、様々な分野における社会的課題の解決に向けた、「社会貢献性」「独自性」「継続性」及び「発展性」



の高いプランを表彰し、社会活動に向けてのチャレンジ精神を醸成するとともに、非営利の社会貢献活動を促進することを目的として開催いたします。一次審査を通過したファイナリストが、プレゼンテーションを行います。是非、ご観覧ください。



日時 ▶ 令和6年11月24日(日) 13:00～

場所 ▶ ホテルレイクビュー水戸

観覧についての詳細、申込方法などはホームページをご覧ください。



講座開催
情報

地域活動に活かすLINE講座 ～LINEグループを活用しよう～

地域活動団体やコミュニティ内での活用を想定し、LINEグループで使える便利な機能と活用方法を学びます。

参加費無料

各回20名程度

笠間市 日時 ▶ 令和6年11月28日(土) 10:00～16:00

会場 場所 ▶ 地域交流センター(定員に達しました)

坂東市 日時 ▶ 令和6年12月4日(土) 14:00～16:00

会場 場所 ▶ 坂東市役所1階 多目的ホール

対象

茨城県内のNPO法人、ボランティア・地域活動団体に所属し、これから活動でLINEを活用したいと考えている方や興味のある方で、LINEをインストール済みのスマートフォンをご使用の方。

申込締切 ▶ 各回開催日3日前

申込方法 ▶ 右の二次元バーコードを読み込んでいただくか、下記の電話番号またはメールアドレスにご連絡ください。

Tel ▶ 029-224-8120 E-mail ▶ info@challenge-ibaraki.jp

主催：チャレンジいばらき県民運動 (IT活用グループ)



チャレいばレターVOL.18 アンケート

広報紙をご愛読いただき、誠にありがとうございます。今後の広報紙をさらにより良いものとするため、アンケートにご協力ください。ご協力いただいた方の中から、抽選で10名の方にオリジナルグッズをプレゼントします。

応募方法 ▶ 右の二次元バーコードから読み取り、応募フォームからご応募いただくか、はがきに

①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号
⑥「チャレいばレターVOL.18」の感想やご意見をお書きの上、ご応募ください。(応募は1人1回まで)。

応募先 ▶

〒310-0011水戸市三の丸1-5-38 茨城県三の丸庁舎2階
チャレンジいばらき県民運動事務局プレゼント係

締切 ▶ 2025年(令和7年)1月31日(金) (当日消印有効)

- 当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
- ご記入いただいた個人情報は、プレゼントの発送にのみ使用させていただきます。
- いただいた感想等は、チャレいばレターの紙面やSNS等に掲載させていただくことがありますので、予めご了承ください。



編集
後記

所属する団体の活動で、県内の公民館等の情報を収集しました。インターネットを有効に活用してコロナ禍に対応した公民館、公民館という名称を復活させ地域づくりを推進している公民館、市民と行政が協働してまちづくりの担い手を育成している市民センター、また、NPOや団体が古民家や酒蔵を改修して交流や学びの場を創出している公民館的なたまり場等々に出会いました。県内各地のこのような情報を見つけ、提供していければと思います。(県民活動推進員 大月)

「人のお世話にならぬよう 人のお世話をするように そして報いを求めぬように」これは自治三訣といって私の所属している青少年育成団体のモットーになっています。県内でもたくさんの方々人がため、地域のために様々な活動をしていらっしゃる事が県民活動推進員になって初めてわかりました。本当に社会の縁の下の力持ちとして活動している団体や皆さんを、この「チャレいばレター」を通して広く知っていただき、活動の輪を広げていかなければと思っています。(県民活動推進員 園部)

チャレンジいばらき県民運動 広報紙

〔発行〕チャレンジいばらき県民運動 令和6年11月1日発行
〔編集〕県民活動推進員(魅力発見・発信グループ)

お問い合わせ



For Social Good

チャレンジいばらき県民運動

〒310-0011 茨城県水戸市三の丸1-5-38 茨城県三の丸庁舎2階

Tel.029-224-8120 Fax.029-233-0030

ホームページ ▶ <https://challenge-ibaraki.jp> E-mail ▶ info@challenge-ibaraki.jp

